



未来につながる京都の地域創生教育

～丹州地域（丹後・丹波）で躍動する高校生たち～

京都府立大江高等学校

教諭 小西 正樹

1. はじめに

本校は、明治41年（1908年）に加佐郡立河守蚕業学校として創立され、今年度で112年を迎える京都府福知山市にある公立学校です。5回の校種・校名変更を経て、昭和34年から現在の京都府立大江高等学校となりました。現在、グローバル化や高度情報化社会など、学校教育に対する価値観やニーズは多様化しています。本校では、地域の歴史や文化や自然について深く学び、ふるさとの良さを認識し、愛着を持たせることを主眼とした『地域創生教育』を推進しています。令和2年度より普通科総合選択制とビジネス科学科を廃止し、新たに地域創生教育を学ぶ総合学科「地域創生科」を全国で初めて設置することになりました。



2. 『森の京都観光プランコンテスト』グランプリ受賞

私たちは地域の課題を解決する提案ができるよう、経済産業省の地域分析システム「RESAS」を活用し、この地域の将来について調査や研究・分析に取り組んできました。少子高齢化の影響は京都府北部も例外ではなく、将来の存続が厳しい地域もあります。これをきっかけに生徒たちの意識も変わり始め、自分たちが暮らす地域の存続に興味・関心を抱くようになりました。



京都府は地域創生戦略として「交流人口の重要性」を掲げ、定住人口だけではなく交流人口の拡大を目指した施策を推進しています。古都京都とは違う『もうひとつの京都（海の京都・森の京都・お茶の京都）』では、それぞれの地域において独自の文化が形成されています。福知山市は「森の京都」「海の京都」に属しており、この地域の良さを伝えたいという熱い思いを抱き、「森の京都観光プランコンテスト」に応募しました。

このコンテストは、京都府南丹・中丹地域を中心とする「森の京都」において、豊かな食材や自然、里山の景観など、独自の歴史や文化を活かした新たな観光プランや観光素材を高校生や大学生が提案します。大学生とともにコンテストに参加できたことは、多様な考え方や新たな視点での気づきにつながり、多くのことを学ぶ機会になりました。

前年度は、「古代の叡智による不思議な感覚と雰囲気が漂う元伊勢体感ツアー」を提案しました。本校の所在地である京都府福知山市大江町の近くには、元伊勢内宮皇大神社があり、日本最高神といわれる天照大御神が伊勢神宮に鎮座される54年前に降臨したとされる地域です。今もなお独特の雰囲気が漂っており、その良さを感じてもらいたいと考え、企画しました。当時は、どのようにすれば地域の魅力を発信でき、理解してもらえる

のか、試行錯誤の連続でした。

前年度の反省を踏まえ、地域の特性を活かすこと、ツアーの催行時間を意識することなど、観光客が知らない地域の魅力を提案しようと考えました。また、この地域では秋が深まると、早朝の大江山連邦周辺に近畿随一といわれる雲海が眼下に広がります。近くの旧大江山スキー場近辺の夜空は、多くの星が降り注ぐ天然のプラネタリウムになります。このツアーでは、健康回復・維持・増進につながる旅をコンセプトに掲げ、自転車で移動するヘルスツーリズムを企画しました。また食に関しては、江戸時代から続く大江山名物鬼そばや近くの禅寺の「精進料理」に着目し、心や体の両面から健康維持・回復・増進につながる非日常体験を演出したいと考えました。

準備段階では、地域の調べ学習や聞き込みを繰り返して、地域の魅力再発見に努めました。地域の方々との触れ合いが信頼関係を育み、地域創生教育を推進できたと思います。地域の良さに気づいた生徒たちは、自分のふるさとが好きになり、興味・関心を抱くようになりました。将来の京都府北部地域を担う人材育成に寄与することができました。

今回の観光プランでは、ターゲットを親子連れに絞り、親から子どもへ未来につながる時間を共有して欲しいという思いがあります。高校生がツアーガイドを務めるこのツアーは夕方から始まり、禅寺にて和尚から地域の歴史や伝統文化・説法などに耳を傾けます。夕食には精進料理を食べ、いざ天然のプラネタリウムへと向かいます。感動で眠りについた夜明け前には出発し、大江山連邦の雲海を眺めるために自転車で移動します。眼下に広がる自然の雄大さを参加者同士で共有します。下山時には大江山名物鬼そばを堪能し、鬼伝説の文化に浸る行程になっています。コンテストでグランプリに輝いた時には、多くの人々に地元の魅力を知ってもらえることができると生徒たちは喜んでいました。現在この企画は、一般社団法人森の京都地域振興社にて商品化に向けた準備が進んでいます。



3. ビジネス科学科の個性を活かした10の取り組み

ビジネス科学科では、商業教育を専門的に学ぶことにより、地域に貢献できる生徒を育成しています。商業教育の根幹である「生きる力」と「起業家精神」を養うため、販売実習や映像デザイン実習に力を入れ、地域活性化に寄与してきました。また、探究学習を通して、表現力や判断力、創造力を身につけ、新しい社会を生きていくために必要な資質能力を養います。

① インターネットショッピングモール「くるせる」

丹後・丹波にある企業約90社と提携しています。発足から10年が経過し、今では地域の特産品を全国に発信できるツールとして、地域の方々から信頼を得ています。こだわりのまな板や鬼伝説関連の食材は、全国各地よりご注文をいただき好評を得ています。今後はオリジナル商品の開発にも積極的にチャレンジし、地域の良さをアピールしていきたいと考えています。

「くるせる」URL：<http://crsel.jp/>

「くるせる」HPはこちら▶



② 元伊勢内宮参道マルシェ「大江高校レトロカフェ」

毎年3月に開催される元伊勢内宮参道マルシェで古民家いづみやを舞台に「大江高校レトロカフェ」を開店しました。店舗の企画・運営や、お客様に対する「おもてなしの心」を理解することが目的です。

店内は昭和のグッズや紙芝居、昭和歌謡などでレトロな雰囲気を演出しました。また、昭和時代に流行したソウルフード「カレー焼き」を再現し、お客様からは懐かしむお声と多くの注文をいただきました。

③ B-1 グランプリ参加！十和田バラ焼きゼミナール

B-1 グランプリは、地域由来のB級グルメをまちおこしの目的にし、全国各地で開催されるイベントです。私たちは青森県十和田市にある十和田バラ焼きゼミナールからご招待を受け、販売実習に取り組みました。お客様を楽しませるための演出や工夫など、商売の面白さを改めて痛感しました。また、他校や十和田市の方々との交流は、生徒の成長を促すものになりました。



④ 本校生徒が企画・運営！『TANTAN 見本市』開催

京都府北部にある専門高校および支援学校、地元特産品を扱う業者の賛同を得て、毎年秋に開催するイベントです。参加校への依頼から商品の管理・会場準備・司会進行・販売までを高校生が企画・運営します。会場は販売エリア・ステージエリア・屋台村・ワークショップと4つのエリアを準備し、来場者を楽しませる演出を心がけました。商品を企画し、販売する面白さを実感できました。



⑤ 京都 FM 丹波放送『大江高校チャンネル』

福知山市をキーステーションとするコミュニティFM・京都FM丹波放送で番組を担当しました。当日は30分生放送の収録に挑み、聴いている人を意識したアナウンスを心がけました。コミュニケーション能力や表現力を養うために、3年前から取り組んでいます。発音の仕方やイントネーション、声の出し方や言葉の選び方、間の取り方など情報を伝える心構えを身につけました。



⑥ 大江高校オリジナルツアーの企画・運営

近年わが国では、訪日外国人の影響や関係人口の拡大に向けた取り組みなど、観光が注目されています。商業科でもまもなく『観光ビジネス』が導入されます。本校でも探究活動を通して、地域の魅力の再認識に努めています。毎年2月に実施しているオリジナルツアーでは、高校生がガイド役を務め、必要な知識や表現力を高めるようにしています。今年度は、福知山市の伝統工芸「丹後和紙」「由良川藍染め」「丹波漆」をスタンプラリー形式で巡回し、「桔梗紋和紙灯籠」を完成させるツアーを企画しました。

⑦ 若人チャレンジ事業『明智光秀デザイン画』

若人チャレンジ事業において、福知山城を築いた明智光秀にちなんだ巨大デザイン画の依頼を受けました。まちの景観を崩さず馴染むことを考え、本市の特徴を捉えるためのデザイン画制作は4ヶ月に及びました。また、地域の現状を把握するために、明智光秀ゆかりの御霊神社や近くの新町商店街など、視察を重ねました。宮司からはこの地域の歴史や背景などの詳しい説明を受け、新たな知識を得ることができました。明智光秀の家紋「桔梗紋」と福知山音頭の「踊り子」、御霊神社の「鳥居」を描き、背景には和紙の質感を演出した作品が完成しました。



⑧ 『地方創生☆政策アイデアコンテスト』で課題提案

内閣府地方創生推進室主催のコンテストで、今年で4回目の提案になります。前出のRESASを用いて地域を分析し、地域の課題を見つけ解決策を提案するために、聞き取り調査を行い、疑問や課題に対する問いを立てていきました。疑問に感じた課題について、各班で議論を積み重ね、解決

策を探っていきます。専門家のアドバイスを受け、高校生の目線で解決策を提案しました。自ら考え行動できる資質を育めるようになりました。

⑨ 和紙灯籠制作で大学生・高校生・中学生が連携

福知山公立大学・大江高校・桃映中学校の3校が連携し、福知山伝統工芸の良さを各世代で共有した取り組みです。大学生が高校生に作り方を教え、それを中学生に伝える。お互いの自尊感情を高めることができるものでした。できあがった作品は各種イベントでも活用し、和紙に覆われた灯籠が、優しい灯りで辺りの雰囲気演出します。今後は更なる活用方法を探し、高校生が伝統を継承していきたいと考えています。



⑩ 大江地域フィルムコミッションの映画撮影

大江町での映画制作にあたり、ロケ班のスタッフとして作品づくりに参加しました。カメラワークの技術や俳優の表情、台詞など、撮影現場でしか分からない緊張感のある取り組みでした。高度な技術を目の当たりにした事で、今までにない映像表現のスキルを身につけることができました。また、映画の撮影現場は過酷なものでしたが、一人ひとりが自分の役割を把握し、チーム一丸となって映画撮影に取り組めたと感じます。プロの撮影技術を学んだことは、貴重な体験となりました。



4. 今後の展望 令和2年『地域創生科』が始動

本校では2020年から今までの商業教育をベースにした「地域創生教育」に取り組めます。本校独自の「地域創生学」を立ち上げ、「基礎」「演習」「実践」を通して、丹州地域(丹後・丹波)の課題解決に向けた取り組みをさらに深化させていきます。また、本校は文部科学省より、「地域協働推進校(アソシエイト校)」の指定を受け、地域貢献活動に取り組んでいます。丹州地域の歴史や文化・食

生活などを学ぶ「丹州ふるさと学」により、ふるさと愛を育みます。また、地域創生活動に必要なとされる資質能力「教養」「マインド」「スキル」を2年次からは6つの系統で学び、専門的なスキルをバランス良く習得していきます。

(1) 公共マネジメント系統

公務員に必要な資質と行政で活躍できるスキル

(2) 生活福祉系統

防災や子育て、介護など生活に必要なスキル

(3) 経営情報系統

起業家精神、オンラインショップ経営できるスキル

(4) 映像デザイン系統

コンテンツ制作や配信、広報活動できるスキル

(5) 国際交流系統

異文化理解、グローバル社会で活躍できるスキル

(6) 環境サイエンス系統

環境調査やフィールドワークによる科学的なスキル

地域活性化に向けた学びを通して、まちの賑わいを演出し、次世代の地域の担い手の育成に努めていきたいと考えています。

5. おわりに

これからの時代は、正解がない先行き不透明な時代に突入していくといわれています。多くの知識や技能を習得することはもちろんですが、課題に対する問いを立て、解決に向き合い、検証する学びが必要だと考えています。探究学習を通じた学びの効果はすでに実証済みであり、課題型探究学習(PBL)がより一層進んでいくと思います。

また、2022年から順次実施される新学習指導要領による新しい教育の幕開けを感じています。多くの生徒にとって明るい未来が迎えられるように、試行錯誤を繰り返しながら次の一手を模索していきたいと思っています。今後は地域創生教育の活動を通して、地域の方々とお互いに連携しあえる関係を築き、協働的な作業の中で地域貢献活動に取り組んでいきます。